

令和3年度第1回福井市総合教育会議 議事録

1 日時 令和3年11月2日(火) 開会 15時00分 閉会 16時30分

2 場所 福井役所本館3階 庁議室

3 出席者 福井市長 東村 新一
教育長 吉川 雄二
教育委員(教育長職務代理者) 春木 伸一
教育委員 木村 敦子
教育委員 多田 和博
教育委員 宮郷 美千代

4 事務局職員

<総務部>

総務部長 塚谷 朋美
総合政策課長 中村 直幸

<商工労働部>

観光文化局長 村本 貴史
文化振興課長 林 美樹子
自然史博物館長 谷本 修
美術館長 石堂 裕昭
郷土歴史博物館長 坂 靖志

<教育委員会事務局>

教育部長 林 俊宏
少年対策参事官 松倉 伸雄
教育次長 坂下 哲也
教育総務課長 馬來田 善準
学校教育課長 坪川 修一郎
保健給食課長 木下 武明
生涯学習課長 山本 桂一郎
青少年課長 松田 玲子
スポーツ課長 中嶋 靖利
文化財保護課長 天谷 賢一
図書館統括館長 小倉 敏之
教育総務課副課長 名津井 章
教育総務課課長補佐 廣部 嘉寛
教育総務課主査 池田 拓朗

5 協議事項 福井市教育に関する大綱の改定について

6 議事の経過

事務局
(教育総務課副課長)

ただ今から、令和3年度第1回福井市総合教育会議を開催いたします。
はじめに、開会にあたりまして、東村市長から御挨拶をお願いいたします。

市 長

— あいさつ —

事務局
(教育総務課副課長)

ありがとうございました。続きまして、教育委員会を代表して、吉川教育長より挨拶をお願いいたします。

教育長

— あいさつ —

事務局
(教育総務課副課長)

ありがとうございました。それではここからの進行を東村市長をお願いいたします。

市 長

それでは、会議を進めます。本日は「福井市教育に関する大綱の改定」について協議を頂きたいと思っております。事務局から説明をお願いします。

事務局
(教育総務課長)

— 資料に沿って説明 —

市 長

ありがとうございました。ただ今の説明について、御質問、御意見等がありましたら、お伺いしたいと思います。

春木委員

方針のところの文言は、前回と変えていないのですか。

事務局
(教育総務課長)

方針1から方針10の文言は、同じになっております。

教育長

分野別に組み換えはしていないのですか。また、新たに学校教育と生涯学習、スポーツと文化、芸術、歴史、自然に大きく分けているが、この1番から10番までの並びはそれに応じて変わっているのですか。

事務局
(教育総務課長)

前回の大綱では、政策分野での分類は行っていませんでしたが、例えば、今回で言いますと、生涯学習、スポーツ分野での方針5「ふるさと福井への誇りや愛着が持てる環境の充実を図る」は、現計画では方針2になっています。前はそういう分野としての考え方が総合計画と一緒になかったもので、今回は分野別に分けて並び替えてわかりやすくしました。

市 長

資料の5番目の前大綱との比較のところのSDGs以降の部分が、今回重要なところで、これからやっという施策を抜き出したものとなっています。

春木委員

生涯学習、スポーツの方針5「ふるさと福井への誇りや愛着が持てる環境」は抽象的な感じがする。これと方針10の「郷土の歴史や文化遺産を保存・継承し、福井の誇りとして活用する」との違いはどういうところにあるのでしょうか。

教育長	<p>資料の2を見ると、方針5「ふるさと福井への誇りや愛着が持てる環境の充実を図る」では、基本的に学校におけるふるさと教育と、公民館における福井学とを位置付けている。</p> <p>一方、方針10は、郷土の歴史・文化的な内容で、各地区にあるような、例えば祭りであるとか保存すべき文化財であるとか、そういったことへの活用や継承とかをうたっている。基本的には似ているように感じるが、中身的には、学校・社会的な教育と、美術や歴史的な分野に分けていきたいと思います。</p>
春木委員	<p>こういう見方の違いがありますよ、というのが分かるとなおいいのではないですか。</p>
市 長	<p>今回変えたところで、政策分野という項目があって、生涯学習、スポーツというのと、文化、芸術、歴史、自然というのは、どこに線が入っているのか悩ましいところもあるかと思う。</p>
事務局 (教育総務課長)	<p>資料2の3ページにもありますように、確かに10の方針にはそれぞれ関連性がありまして、必ずしも学校教育とか生涯学習とかそれぞれの分野でとどまるものではありません。</p> <p>異なる分野でも関連性があり、横断的に連携をもって進めていくということですが、便宜上、総合計画との兼ね合いから、このように分類しています。</p>
教育長	<p>地域の祭りなんかは地域の文化遺産であるけども、同時に地域にとっては生涯学習として、子どもたちにしっかりと取り組ませたい分野ですので、実際、基本計画に落ちた段階で、具体的な内容を書いてもらうとよいと思う。</p>
春木委員	<p>前回との比較でいろいろ出ているけども、例えば、感染症に関する「新たな日常」への対応というのは、大綱の文言としてどこかに出てくるんですか。</p>
教育長	<p>大綱の文言としては、4ページ目以降、1番から10番まで方針が示してありますが、まず2ページ目の4のところでは教育をめぐる社会情勢等という中で、全般的に「新たな日常」への対応が求められるし、デジタル化やデジタルトランスフォーメーションのようなことも全般的にかからないといけないので、1番から10番までの方針のそれぞれに、「新たな日常」への対応をどうしようかということではなく、今回の大綱では、全体的に「新たな日常」への対応が必要となるし、DXの推進が必要だとまとめている。新たに社会情勢が変わったということである。</p>
事務局 (教育総務課長)	<p>教育長がおっしゃったようにSDGsとの関係性とかDXの推進や「新たな日常」への対応は、すべての分野に関係しています。</p> <p>例えば、学校においては、昨年度に学校再開支援事業、今年度に学校教育活動継続支援事業ということで各学校の規模に応じ、昨年度は100万から200万、今年度は80万から160万を学校に予算を振り分けることで、消毒液や熱中症対策のサーキュレーターなど必要な対策をこれまでしてまいりました。相当な予算を使っていますが、今後も手洗いや消毒といった対策は引き続き必要になってくるかと思っています。</p>

大綱には、そういった具体的なことが書いてあるわけではありませんが、それらに関連しまして、現在国も議論している今後の学校整備についても、例えば教室の面積を今までよりも広く設けるべきではないとか、教室と廊下の境をなくす、あるいはとれるようにしておくことで、今回のような事態に陥っても対応できるようにしておくなど、具体的な整備をしていく中で今後反映していくことがあるかと思えます。

春木委員

具体的には基本計画の中に入れていくということですね。

事務局
(教育部長)

基本計画の中にも落とし込みますし、実際の事業推進の中で、例えば同じスポーツをするのでも、こういったところはコロナを意識して対策を打ちますよという形で、事業レベルでの対応になってくると思います。

木村委員

5年前にも大綱を策定したが、その時ととても時代が変わったなと思っている。

教育長

新たな日常として、今後の教育活動において、どんな備えが必要なのか、どんな方向性に持っていけないといけないのかというのは、ひとつ大きくこれまでとは変わってきている部分だろうと思います。

例えば、学校行事で言えば、今は県内中心に活動範囲を絞っているが、今後、またコロナ前のように戻すのか、引き続き制限していくのか。また、卒業式を卒業生だけとか、保護者だけとか、落ち着いたら元に戻しているのかどうかは、大きな方向性として考えていけないと思います。これまでのものを踏襲していけばいいものではなくてきているし、先生方もある意味、コロナによって無理矢理業務改善につながった部分もあります。

コロナが終わったら元に戻していいのかというと、それは戻らないと思います。

宮郷委員

学校教育分野ですけど、大綱の4、5ページをみるとICTという言葉が多く出てきています。方針3で、ICT環境の整備を進めますとあり、方針1で、ICTを活用した教育を充実させます、方針4でインターネットの適正利用にかかる啓発活動を推進します、方針2で新たな健康課題である視力低下に関する対策を進めるとあり、学校教育においては、iPadが1人1台ずつあるので、ICTとかインターネットとかデジタルの方向で福井市は進めていくのでしょうか。

一方で、2ページ目には、グローバル化、デジタル社会、多様性社会と書かれているが、方針の中ではグローバル化のことはどこにも触れていないと思います。

福井市は英語教育を前倒しで進めていて、グローバル化への対応を進めていたと思いますが、方針9でもICTを活用しながら文化芸術に触れられる機会を拡充しますとあり、福井市はインターネットとかICTとかデジタル社会への対応を進めていくように見えるのですが。

市長

国の方もデジタル庁を作って、デジタル化を進めていこうとしています。昔からデジタル関係の政策については、もっと使える世の中にしていこうという話があったんですが、結果的にはあまり進まなかったんです。

ところが、ここにきて、コロナのこともあって、これからの新しい日常に対応していくということになると、もう少ししっかりデジタルを使える

ようにする必要があり、今回もコロナワクチン予防接種の予約受付が、スマートフォンでできるんですけども、高齢な方たちほど、使いこなせていないものですから、もう少し使い方がわかると、楽に予約が取れるのにそれができない。ところが、若い方たちは、よく使い方を知っており、予約がスムーズなんです。

デジタルを活用していかなければならないというところは、SDGsの方にも絡んでくると思いますし、DXの流れを構築して動こうとしているということに、福井市も乗って進んでいかななくてはならないというところだと思います。

教育長

以前は、英語教育だとかグローバル教育だとか結構前面に出ていたということですが、あれはちょうど学習指導要領が改訂になって、その中で新たにその英語教育も入ってきたということで、盛り込まれた部分があります。

それはもう既に当たり前になっているものだから、改めてグローバル化というよりは、次のステップでいうICT関係やDXに移っていくということになります。グローバル化やDXの推進については、文言としては確かに書いてはないけども、計画の中にもう少し具体的にしていくところかなと思います。

福井市全体としてはDX推進や脱ハンコ社会など、社会教育分野でもある程度進めていかないといけないが、ICTを使ったからDXかというところと決してそうではありません。その辺りは、何ができるかというところはしっかりと考えていかないといけません。ICTを使うことで大きく何か変化がないとDXには繋がらない。学校としては、なかなか大きな変化は嫌がるのですが、ICTが入ってきて、若い子らは、iPadなんかを小さいときから使っています。

しかし、年配の先生方は、なかなかそこをうまく使えない。その辺りの研修をどうしていくか、次の課題かと思います。

全体的な話、ICTは避けて通れないところかなと。

多田委員

全体的な話で言いますと、SDGsの関連とかDXの推進とか、すでに進んでいる計画や施策があって、リンクするところや、させないといけないところがあると思います。

SDGsのパートナーシップで目標を達成しようと、民間連携で進めていく学校給食センターのPFIとかは素晴らしいことだと思うが、学校教育において、ジェンダー平等を実現しようというのは、新たに計画があるのかどうか、もちろんこれからの時代それが大事で、意識していきましょうということになるんだろうけども、それが方針の方に逆流してもいいんじゃないかとも思う。方針ありきでSDGsということじゃなくて、リンクしたら価値観として大事だなと思います。

DXなんかに関しても、政策分野の方針のところにDXを進めるというのは具体的には入らないので、方針から実際の計画に落ちるときにDXが落ちちゃうというか、形が変わったDX、なんちゃってDXみたいな、デジタル化と変わらないじゃないかということにならないか。例えば、方針の中に情報モラルを学びましょうとか、もっと大きくしないと形が変わってしまわないかと不安なところなんです。

あと、具体的などころになるんですが、図書館のリニューアルというのは、新しくなって市民が集う場を作るんですよ。素晴らしいことなんですけども、コロナで集えない人たちのためのサービスは何ですかといったときに、電子図書館があるが、5年前にも大綱に記載があって、研究してい

るんだけど、今度の教育振興基本計画にも検討としか記載がない。これを実現するくらいに落とし込まないとDXが進まないじゃないかと思う。それがその形を変えて、ICタグかなんかになったりすると市民サービスの利益になっていないというところが不安かなと思います。

本当に上からDXというのなら、浸透するような価値観の変化みたいなものは求めていかないと、我々もそうですし、教育委員会の方もそうですし、教育の現場もそうですけど、学ばないといけない。従来の価値観の中でDXを進めてしまうと、5年たってもやっぱり進んでいないとなってしまうのではないかとというところが不安なところです。

事務局
(教育総務課長)

まずSDGsに関してですが、大事なことは、SDGsそのものを学ぶことでもありませんし、いろんな学校活動の中でも、いじめがだめであるとか、みんな平等にというのは日常的にこれまでも言ってきていることで、そういった施策が、SDGsのこの部分と、実は繋がってるんですよということだと思えますね。新たにSDGsだからこうしなさいとかではなく、日本はそもそも持続可能な社会を常に意識してきた社会ですから、日頃の生活の中とか、これまでの学びの環境の中で、そういう考え方がいろいろあって、そこをリンクしていくというところで、先ほど言ったジェンダーのことも、それぞれ取組の中でつながっていくことになると思っています。

多田委員

デジタルというのは、アナログがデジタルになるデジタル化ではなくて、DXというのは、今までやっていたものが続いていて、新たになるわけで、切り替わるわけではないので、例えば、電子図書館もそうだが、同じ図書館の枠内でやろうとすると、蔵書を減らしましょうという話になると思うんですけども、そういう問題じゃないと。この5年間は過渡期ということになるけども、今までのサービスとは別のものとして考える必要があると思います。DX化のために今までのアナログの一部がなくなるというのはいけないと思います。

先ほどのALTの話もそうですし、GIGA構想のタブレット端末で外国の学校とつながるという話になってくるかもしれないけども、ALTがなくなるわけではないとなると、そのあたりの考え方が完全に切り替わるのは時間がかかるのかなと思います。

事務局
(図書館統括館長)

電子図書館に関しまして、コロナで図書館を閉館しないといけなくなり、図書館を利用できないという中で電子図書が注目を浴びて、以前は導入しているところが少なかったが、だんだん増えてきているのが現状です。電子図書については、今後、導入していくべき流れではあるのですが、委員おっしゃったとおり、紙の本代が減らされてしまうんじゃないかということがあり、それについて、導入の方法として、例えば、市町とか県とかと共同して導入する方法はないかなど考えていきたいと思っています。

また、電子図書というと流行りのコンテンツ、皆さんが買ったがっている本が主体となっています。それについて、福井市だけ持っている郷土歴史の本などを電子化するというのも考えられます。

なかなか費用のかかるものですので、引き続き検討していきたいと思っています。

それと図書館が独自に持っている専門書、そこに行かないと見れない資料で電子化されていないものもありますので、そういったところも考えに入れながら、今回は導入するとは書いていないのですが、導入については前向きに考えていきたいと思っています。

事務局
(教育部長)

DXについて補足です。福井市としては、DX推進計画の策定を進めており、いろんな施策を進めていくのですが、ここで、DXをどうやって落とし込もうというところに苦労しました。最終的には全体を包括する中で、4番のところでDXという言葉の落とし込みまして、中々、細かいところまで行くと、どうやって考え方の変革とか仕組みが変わるのかというところが見えなかったということがあって、そこをまずは、ICTを有効に活用していこうとなっています。5年間の中で少しでもDXに変わっていくようにつながれたらと思いを込めながら、作らせてもらったのが現実でございます。

本来なら、いろんなところにここがICTとかを使うと、こういうふうに変わっていきますよとしっかりと落とし込みたかったのですが、そこまではいかなかったというところで、御理解いただけたらと思います。

教育長

これまでのサービスを低下させずに新たなものを盛り込んでいくという視点はとても大事なところだと思う。ICTタグにしても学校なんかで言うと、不登校の対応でこれまでは先生方が家庭訪問しながら子供たちや家庭と関わってきたものが、今、タブレット1台で関わられるようになっていく。

実際に、学校の授業も家でネットさえあれば見れるというような仕組み作りはもう出来上がっているのだから、新たな形にはなっているかなと思います。

だから登校対策として、決して学校に出てこれないとか、保健室登校とか相談室登校の子ら、ICTを使えばそういったところで出席を認めるとか、そういったことは十分、今後、進めていけるかなと思っています。

今、チャレンジ教室なんかでも、ネットで授業を見てもらったり、相談活動をネットでもしてもらったりなど進めているので、さらにそれを進めていくことが必要なんだろうと。

ただ、DXという切り口で見ると、それは劇的に変わってるかと言ったら、これまでの延長が多少便利になったぐらいのことなので、教育には不易と流行の部分があって、やはりあくまでも、学校の教室にみんなが人間関係を作りながら、授業を聞いて学びを進めるというのが基本なので、あまりそこを全部ICTに切替えてしまうと、じゃあ学校いらんやないのかという話になりかねない。そこはちょっとDXという言い方ではないかなと思っています。

よく、よその市町で一斉休校としたときに、一つの画面で30人が出てきて、「はい、おはよう。大丈夫、元気か」とやってる場面がよくありますが、あれはちょっと違うかなと私自身は思っている。

やはり基本はしっかりと学校に出てきてみんなで顔を合わせて授業をするべきだと思います。

ただ、コロナで2週間どうしても留め置いておかなければならない、元気なのに家から出れない子については、学力の保障をしてあげないといけないので、それがタブレットを持ち帰らせるとか、その学校での授業をしっかりと映して自宅で学習できるというような対応はしっかりとしていかなければいけませんから、そこも充実させていく必要はあると思っています。

多田委員

AIドリルなんかが入ると、瞬時にその子の弱点がわかるようになるわけで、今までは先生が〇×をつけて、それを集計したり、パソコンに入れ

たりしていたんでしょけども、それで先生がいらなくなるわけじゃなくて、基本理念にある「一人ひとりの可能性を引き出す」という意味で、弱点とか特徴をわかったうえで何をするのかというのが今後重要になってくるので、教えることから引き出すみたいな、そういう能力がだんだん必要になってきて、価値観が本当に変わるのじゃないかなという印象を持っています。

いくらデジタル化といっても、人件費が減るとかそういう風にはなっていないなくて、教育の高度化といったらいいのかもしれませんが、そのためにはお金がないといけないというのがあるかもしれません。

理想としてはそういうところに行くようになると思います。

春木委員

不登校の子の話なんですけど、いろいろ現場で見て、不登校というのは決して減っていないんですね。ただ、みんな1人1台ずつタブレットを持ってますので、何が良かったかお母さんに言わせると、学習することよりもタブレットを通じて、バーチャルだけれどもクラスの仲間といろんな話し合いができる。そうすると、そのあと、本人が現実の教室に行ってみようかなという動きになったとも言われているので、そういう意味で、ただ学習だけの手段じゃないないんだろうなと思います。

事務局
(総務部長)

今、福井市では第八次総合計画を策定中でして、総合計画ではまず、SDGsの17の目標を達成していこうという世界的な取組ですが、その目指す方向と福井市が策定している総合計画の取組の方向性が同じということで、その中の教育に関するところについても、当然ですがSDGsが盛り込まれているので、教育大綱についても盛り込んでいるというところで

す。DXにつきましても、総合計画もDXということを根底にしている、いろんな施策の中でDXを進めることでいろいろ効率化を図れます。

そして今、コロナによって人と人がつながらなくなった部分をこういった力で補っていけるということがわかってきたということで、こういった力を借りて、目の届かないところをDXでつなげていけたらと思います。

教育については、先生の多忙化というところも昔からよく言われてまして、今までこまごまと手を取られていたところをDX化、ICT化で効率化して、もっと子どもたち、市民に対して、直接いろんなことをしていくことに注力していけるところがDXの大きな目的なのかなと感じていて、総合計画を策定していくときにはそういった視点で、効率化することと、本来やるべきことを進め、市民サービスを向上させていきたいということでのDX化かなというところが感想でございます。

教育長

先ほど多田委員がおっしゃったような学習のドリルなんかも実際に教材は入っています。タブレット上でいろいろ回答して、サーバーで全部集計して丸つけなんかは一瞬で終わると。そういったことは進んできている部分はあるんです。

そうすると、先生方が家に持ち帰って丸をつけてるとかそういったことはこれからどんどんなくなっていこうし、朝の会の中で健康観察をしているんですけど、それもタブレットで全部、健康なり、熱何度なりと、それぞれがすれば、集計されて一覧表になるというようなことは入れているので、そういった意味で言うと、少しずつ、ドラスティックにはなかなか変わるかというところではないけども、やっていくことはできるのかなと思います。

それも、結局お金が必要になってくるんだけど、各自タブレットを持ち帰って家で全てそれをやって、クラウドサーバーが全て集計をして、学校に来たときにはその状況が全てわかるというところまでいくとかなり学校としては良いのかと。

教えるところは当然先生がきちんと教えるけれども、そういったテストだとか、プリントだとかいうぐらいの手間は減るんじゃないかなと。そういったところは進めて行かないといけないなと思っています。

ここ1、2年が過渡期なるかと思いますが、高校入試なんかも、今年の県立入試も全部ネットで志願することになってるので、そこで混乱が起きなければいいなと思ってんですけど。だんだん世の中がそういう風になってきています。

そういうところが、親も慣れないといけないし、子供も勉強しないといけないし、先生方も当然慣れないといけないというところはあります。

県もDXという形で、入試だけに限らずいろんなことを進めようとしているので、そこには市としてもやっぱり乗っかっていかないといけないのかなと思います。

春木委員

資料2の2ページ目の社会情勢等というところで、グローバル化とか多様性とか出ていますけども、実際に大綱のなかでそれらに触れる表現がないのですけども、例えば、多様性社会といっても、結局、ダイバーシティというのはやはり必要だと思うんですよね。学校教育に限ったわけではなくて、生涯学習もあればスポーツでも、パラリンピックも選手なんかを考えればダイバーシティなんですよ。これが大綱の中に入ってこないのかなという気はするのですけども。

学校教育のことに関しても、外国籍の子どものこのだけでなく、日本人の子にもかなりダイバーシティがある。それこそ言ってみれば不登校の子だってそうなんです。不登校の子というのは周囲が否定的な評価をしてしまいますから、本人自身も落ち込んでしまって、ますます行けなくなって、悪循環に陥りやすい。そういう風なことを、行ってないんだということを認めて、ここから話をしていくということを言っているんですけど。そういう意味でかなりいくつかの政策分野に関わってくるので、4の社会情勢等のところに触れるだけでなく、もっと入れてもらいたいのかなという気はします。

ただ、どういう文言でどういう風に触れるのか。分野横断的な話になりますから。

教育長

SDGsの視点で言うと、そこに例えばジェンダー平等であるとか、不平等をなくそうであるとかという言葉に繋がってくるのだろうなと。

それをひっくるめてダイバーシティになるかなと。

確かに文言的には入っていないので、バッチ的に、例えば学校教育でもジェンダー平等で、バッチがあるだけで、そこは理念なので、そこを文言に落とすかどうかというところかなと思います。

事務局
(教育総務課長)

検討して参ります。

多田委員

JAXAのような話は、子どもたちだけでなく、生涯教育でもぜひ活用してもらって、従来の生涯教育が趣味の延長で、時間が余っている人がやるのではなく、今働いている戦力になるような人たちに新しい技術とか考え方を選べるような場を検討してもらえるとありがたいです。

スポーツに関して、時代のニーズに応じたスポーツ施設の整備ということで、フットボールセンターとあるんですけど、読み間違えてしまったんですが、時代に合った「施設」を整備するということで、時代に合ったスポーツを取り上げてくれるのかなと思って。これからだとスケートボードだし、ブレイクダンスなんかパリオリンピックの新種目にいち早く福井市がやってくれると思ったんですけど。そういう方向性じゃないのかなと思っていたので。DXの絡みだともここもeスポーツを入れないといけないだろうと思ってたんですけど。

また、今の小学校なんかだとスケボーは人気になったのではないですか。

市長

スケボーは昔からやりたいという人がたくさんいます。ただ、できる場所がないですね。

プロバスケットボールなんかを考えると福井の方が積極的に考えてくれれば、動くよという話をもらうのですが、福井市の人口規模では、一つの競技を運営していくのはなかなか難しい。結果的には、いろいろな話が県の方に行って、県の方でできないかという話になろうとしています。野球、サッカー、バスケット、バレーボールとか、これもどうしたらやっていけるのかという話。それから、桜マラソンをどう運営しようか。今、福井市と坂井市と県とでやれないかという話になっていますけども。そういう議論も少し動いているのも確かなんですが。

教育長

JAXAは具体的に何か動きは。以前ははやぶさが来たときとか、毛利衛さんがいろいろとしてくれたとかという活動がありました。

ここ最近の動きや、取組として学校やJAXAとの関わりで何かできていることを紹介していただきたい。

事務局
(自然史博物館長)

JAXAとの繋がりにつきましては、つい先日も10月24日にJAXAの宇宙教育センターというところの主催におきまして、宇宙教育連携拠点化連絡会というのを、ウェブで開催されました。こちらの学芸員と指定管理者の分館長が出席したんですけど、そこで宇宙教育活動と今後の取り組みということで、JAXAの方とも意見交換をしたところです。

JAXAの方では、わかりやすく言うと、宇宙飛行士の講演会とか、そういう市民に向けた取り組みもあるんですけど、またそれとは別に、学校の先生に対して宇宙教育をどういうふうに学校で取り入れていけばよいかという、そういう指導なんかも、JAXAの方でしていただけていますので、またこちらの方も、私共、自然史博物館が窓口となり、いろいろと教育委員会さんの方に投げかけさせていただきたいと考えております。

木村委員

こういうものほど、インターネットとかデジタルを使って、コロナでそれこそ自然史博物館が開館できなかった時でもやり取りができるようになるといいですね。この間も教育委員会の時にも言いましたが、宇宙にすごく興味あるんですね。インスタグラムの福いいネ！で「今日、ISSの『きぼう』が見えますよ」という情報をこっちからホームページにアクセスして調べるのではなく、ぽんと教えてくれると、ああ、見ようとか、何時何分見えるよなど、仕事での会話にもなり、地上400キロメートルのところを通過している『きぼう』が肉眼で見えるような、そこから始まる教育もあるのかなと思っています。私は興味深く、何回か見させてもらっていて、こういうJAXAとかの取組を、それこそそれを生涯教育とかデジタルにちょっと遅れがちな人たちも取り組めるような、興味を持って参加

できるようになるといいなと思います。

実際、自然史博物館、なかなか行けないんですけども、今行けないからこそ、デジタル図書館とか、デジタル自然史博物館とか、デジタル公民館とか、なんでも結び付けてはいけないんですけども、もっと身近になるといいなと思います。

事務局
(教育部長)

市のいろんな行政組織やいろんな施設のきっかけづくりという視点で非常に重要な意見だなと思って聞かせていただきました。なかなか大綱で落とせるかというのはないんですけども、工夫して実現していけるようにしたいと思います。御意見ありがとうございます。

木村委員

マラソンですけども、走りたいなと思っているんですね。オクトーバーランで、人数は達成しなかったのかも知れないんですけど、割とみなさん競争意欲があるんだなと思いました。

わかりやすい、取り組みやすいので、走ったり歩いたりが増えてきていると思うんですね。昼間歩くとか走るとかはいいんですけども、暗い道を走るときに走りやすい環境となるような。わざわざ、どこどこへ行ってなになにしないとだめっていうのではなくて、近所で走れるようなことが進むといいなと思います。

事務局
(スポーツ課長)

委員がおっしゃったように近所でというのはなかなか難しいかもしれませんが、県との協議の中でまちなかで距離の表示をしながら、走ってもらうような、初めて走る方でも安全に走れるようなコースは整備していく方向で進めています。実際、昼間ですと、例えばですけども、足羽川の右岸左岸では、水越橋と板垣橋の間くらいで500メートルおきに距離表示をしています。片道6キロ、往復12キロくらいで。そういったところを利用されている方もいらっしゃいます。

また、県の運動公園の外周は日常的に走れます。まちなかで言うと幾久グラウンドですとか、そちらも1周300メートルのトラックがありまして、朝夕は街灯もありますので、早い時間から歩かれている方、走られている方が結構います。場所は決まっていますが、委員おっしゃるようにまちなかとか自分の家から出て近所で走れるようなコースは今後進めていきたいと思っております。

春木委員

マイナンバーカードってありますけども、あれはどこまでデータを入れられるのでしょうか。国民一人ひとり、例えば生まれたらもうそれで発行できるのでしょうか。誰かご存じの方がいれば。

事務局
(教育部長)

生まれたらすぐに登録できます。ただし、大人の場合は期間が長く更新の時期が10年間。子どもの場合は、成長が早いので、更新時期が短いと聞いています。

春木委員

基本計画の話になるかと思いますが、例えば、子どものマイナンバーカードの中に学校検診のデータを入れておくとか、そういうことを考えていて欲しいと思います。

事務局
(教育部長)

母子手帳のデータを入れたりとか、保険証のデータを入れるとかは、現実に進んでいます。今後、また考えていきます。

事務局
(観光文化局長)

実際マイナンバーカードは、いろいろなデータを、あのカードそのものに入れているものではありません。

いろんな分野、例えば保険証とか、他にも相続とか、いろんなことが今、関連付けられようとしています。そういった情報にアクセスして、それが読めるという形になるようなものです。

国の方も、今、マイナンバーをいろんな分野に使えるようにということを進めてはいますけど、まだ実際には具体的に進んでいない状況であります。

市長

国のほうからは急いで作れという指導、指示が毎日のようにどんどんきます。

春木委員

経済成長を図りながら、コロナ感染対策のための「新たな日常」への対応を行っていくことについて、客観的なデータを提供するなどの手段を用いながら、教育の目標の一つとして大綱の中で考えていったらどうかという気もします。

どっちかをとるのではなく、バランスを取りながら進めていかないとならないと思うので。

事務局
(教育部長)

細かいところへ落とし込むというような話もございますし、そういったところも検討させていただきます。

市長

大分御意見は出たと思いますが、これだけ言っておきたいというのがあったらお願いします。

宮郷委員

人生100年時代と言われて、学校教育から始まって、スポーツで健康な体をつくって、そして心を豊かに文化的に過ごせるようになるというのとこの大綱案を見て感じました。

市長

そうですね。そういう風になってくれればいいんですけども、おそらく先ほどのいろいろと御意見あったのは、それにはそれなりのお金がかかるとか、そのような中から、結局は選択をしていかざるを負えないというところがあって、非常に悩ましいところではあるかなと思います。

ただ、今日、聞かせてもらって、いろいろなキーワードが、概要の資料で行くと5番目の書かれているような今のポイントと言いますか、今後の教育施策としてどういうようなものがあるかというところをどのように抽象的な大綱の言葉に落とし込むかという逆の作業をしてもらって、大綱の方に具体的なものが見え隠れするような表現を整理する必要があるのかなと思います。

多田委員

100年生きるということになったときに、昔だと若いときに学んだもので一生暮らせたと思うんですけど、今、時代の流れが速くなっているので、たぶん昔の人の3世代分生きた価値観でいかないといけないと思っています。そのあたりの価値の変動というのは、5年というのは今までの5年よりさらに先の世界で見えていない世界なんだなと考えていて、従来の価値観を改めないといけない時代かなと感じています。

教育長

1年先にはもっとDXは形が変わってるかも知れないし、新たな日常も変わっているかもしれない中で、こういう方向性を示して、その計画を立てるなかで、毎年毎年の結果を受けて、必要があれば見直しをかけていく

ことも必要だと思います。

市 長

教育だけでなく福祉の領域とかまちづくりの領域とか非常に変わっているので、何をもって安定的な考え方とするかということが難しくなっていますね。

事務局
(教育総務課副課長)

そろそろ閉会の時間が近づいてきましたので、最後に東村市長よりまとめの言葉をいただきたいと思います。

市 長

今、申し上げましたけども、言葉をどのように捉えて、どのように理解するかというところが、なかなか定まっていない言葉というものもあるように感じます。そのあたりを大綱で出せる言葉を選んで、今日、委員がおっしゃられたところをポイントに再整理してもらえたらと思います。

事務局
(教育総務課副課長)

どうもありがとうございました。教育委員の皆様におかれましては、本日は活発な御意見をいただきましてどうもありがとうございました。

今回の御指摘ですとか、御意見いただいた点を、次回の教育総合会議までに修正しまして御提示させていただきたいと思います。

次回の令和3年度第2回総合教育会議ですけども、12月24日を予定しております。

それでは以上をもちまして、令和3年度第1回福井市総合教育会議を閉会といたします。本日はどうもありがとうございました。

(以上)